

責任者	鈴木真帆
作成日	2009年7月15日

◆基本情報

国名・案件名	フィリピン国マニラ首都圏都市貧困地区における結核対策プロジェクトPhase1
事業費	(総額) 23,098,099 円 (うち支援額 18,411,993円 うち自己資金 4,686,106円)
事業開始日と完了日	2008年5月8日～2009年5月7日
延長の有無	2008年度事業の延長は無し。ただし次年度については2009年5月27日付で、日本NGO連携無償資金協力による「フィリピン国マニラ首都圏都市貧困地区における結核対策プロジェクトPhase II」を開始
効果検証日(季節) 効果検証対象期間	終了時評価時点 2009年5月8日～2009年5月7日
事業の上位目標	長期的・一般的目的を記載。 上位目標： 1. 2015年までに、事業地における結核罹患率が国全体の罹患率と同様、1990年の値と比べて同じレベルに維持される 2. 2015年までに、事業地における結核死亡率が国全体のそれと同様、1990年の値と比較して、50%減少する 3. 2015年までに、事業値における新登録結核患者内の多剤耐性結核の頻度が3%になる。
事業目的	効果検証対象期間を念頭に置いた短期的目的を記載。1年未満であれば申請時のもの。 プロジェクト目標：質の良いDOTSが確立され、維持される ◎事業地において、2009年度末までに新塗抹陽性肺結核の <u>治癒率</u> が85%以上を維持できる ◎事業地において新塗抹陽性肺結核患者届出率が人口10万対100以上を維持できる
事業概要	何を投入して、どのようなことを行ったか事実関係を記載。申請時の記録を利用する。 結核はフィリピンでは現在も深刻な公衆衛生上の問題の一つであり、国内の死亡原因中第6位で、WHOによる22の結核高負担国内第9位となっている。結核対策の中心は、結核の早期診断及び確実な治療であり、フィリピン保健省も1990年代後半から結核対策の国家戦略としてDOTS(直接服薬確認短期化学療法)を導入し、結核対策を推進し、結核患者の発見率向上と治療成功率の向上に努めている。一方で、DOTSの5つの柱のみでは対応できない多剤耐性結核患者の診断及びケア、HIV合併結核患者のケア、私的医療機関における結核診断と患者ケアの質の向上、都市部社会経済的困難層における結核対策の改善等の問題点が指摘され、2006年に発表されたStop TB Partnershipによる”Stop TB Strategy”でも、これらの問題点を解決するために、DOTSの枠組みを大幅に拡大している。このような中、1993年から2007年まで実施されてきた日本政府の資金援助による結核対策技術支援事業で対象地域の一つであったマニラ市とケソン市を対象として、都市部における社会経済的困難層における結核対策の改善を目指して、本事業(RJPI)が開始された。RJPIは都市部における社会経済的困難層が多く居住する地域において、結核患者が確実に診断と治療を受けられるよう、特に2つの事業地(マニラ市トンド地区、ケソン市パヤタス地区)を選定して以下の活動を実施した。 ●活 動● 活動1：質の高いDOTSが提供される

<人材育成のための研修>

- 1.1.1: 公的保健所やNGOの結核対策従事者の為の人材育成研修実施（医師／看護師／助産師／地域保健ボランティア（CHV）対象）
- 1.1.2: 国立結核リファレンスセンター（NTRL）と協働で結核検査研修の実施（臨床検査技師／臨床検査技師補助／顕微鏡技師対象）
- 1.1.3: 結核診断委員会と関連機関（公的・私的）との連携体制構築
- 1.1.4: 地域保健ボランティア用研修教材内容の改訂
- 1.1.5: 放射線技師を対象とする胸部レントゲン撮影技術向上研修の実施

<結核診断の質向上のためのメカニズム強化>

- 1.2.1: NGOのDOTSセンターを対象に喀痰検査の外部精査保証を確立する
- 1.2.2: NTPコーディネーターの協力を得て、塗抹陰性・胸部レントゲン陽性患者を対象とする地域結核診断委員会との定期的な会合を実施する

<巡回指導>

- 1.3.1: NTPコーディネーターと共に対象地域内のDOTS実施機関（クリニック/検査室など）を訪問し、結核対策に関する巡回指導を実施
- 1.3.2: 半期・年次のプログラム評価の実施
- 1.3.3: 服薬中断患者の自宅訪問の実施
- 1.3.4: 対象地域内の結核対策（診断及びケア）に関わる基本情報の収集及び解析の実施

活動2：確実なDOTSが実施されるためのネットワーク構築

- 2.1: 事業地におけるDOTS実施機関一覧表作成
- 2.2: 四半期毎にNTPコーディネーターミーティング開催
- 2.3: 結核対策従事者間での1年に1回の協議ワークショップ
- 2.4: NGOクリニックにおける喀痰塗抹検査室の設立

活動3：対象地域におけるエンパワーメント

- 3.1: 地域保健ボランティアを対象とするDOTSパートナーの役割に関するオリエンテーション実施
- 3.2: 地域保健ボランティアタスクフォース団体の設立
- 3.4: (元)結核患者による患者支援グループの設立

活動4：事前評価・調査

- 4.1: フィリピンにおける胸部レントゲン写真研修教材を作成するための現地調査
- 4.2: 結核診断委員会に患者紹介フォームを作成するための調査

活動5：アドボカシー活動

- 5.1: 毎年3月の世界結核デーと、8月の肺月間における対象地域一般住民向けの結核啓発活動
- 5.2: IEC教材等を使用したアドボカシー活動

●投入●

<スタッフ人件費>

- ・ 業務調整／会計
- ・ 看護師
- ・ 健康管理費
- ・ 管理／運営費

<日本側>

- ・ 日本人専門家
 - プロジェクトアドバイザー
 - 業務調整
 - 経理アドバイザー

- ・ 機材供与
 - 結核教育教材
 - キャンペーングッズ

- <フィリピン側>
 - ・ 保健省や保健所の職員
 - ・ NGOスタッフと地域保健ボランティア
 - ・ 設備供給（NTRL/DOHなど）
 - ・ 抗結核薬や消耗品など

<p>指標の設定と達成 予定数値 (数値的な指標の 設定が困難な場合 はものさしとなる 観点を複数記載)</p>	<p>事業目的が達成された 場合に計測する項目 <u>活動1：質の良いDOTS が構築される</u> ＜人材育成＞</p>	<p>立案時の目標値</p>	<p>事業終了時の達成数値</p>
	<p>1.1：研修を受けた結 核対策従事者の数</p> <p>1.2：NTRLにて研修を 受けた技師の数</p> <p>1.3：TBDCとのオリエン テーションによる 変容</p> <p>1.4：放射線技師トレー ニングを受けた人の数</p> <p>1.5：CHV's用研修教材 の改訂状況と、教材を 使用したことによる変 容</p>	<p>1.1： ・医師・看護師：60名 ・医療ボランティア ：100名</p> <p>1.2： ・検査技師：10名 ・検査技師補助：10名</p> <p>1.3：TBDCと連携を持ち、塗 沫陽性で胸部レントゲンに 所見がある患者の発見率を 上げる</p> <p>1.4： ・放射線科医 トンド地区：15名 パヤタス地区：13名 ・放射線技師 トンド地区：13名 パヤタス地区：15名</p> <p>1.5：フィリピン保健省が作 成した英語版の教材をタガ ログ語に改訂する。</p>	<p>1.1： ・医師・看護師：57名 [達成率：95%] ・医療ボランティア： 100名 [達成率：100%]</p> <p>1.2： ・検査技師：7名 [達成率：70%] ・検査技師補助：12名 [達成率：120%]</p> <p>1.3：TBDCメンバーが多忙の ため、TBDCと蜜に連携を図 る事が難しかった。その為、 TBDCへ確実に患者を照会で きるよう、TBDCへの患者照 会フォーマットの作成を開 始した。</p> <p>1.4：放射線トレーニング用 教材のフィリピン版がない 事がわかり、今年は現状調 査を実施した。フィリピン の実情に沿った教材作成 と、それを使用した研修を 次年度に行う。</p> <p>1.5：教材の改訂が終了し、 CHV'sトレーニングで使 用。事業地では英語が分か らないCHV'sのため、研修を 受けたCHV'sからは分かり やすかったと好評だった。 また改訂内容については保 健省の結核対策課からも承 認を得ることが出来た。 (教材：別添資料①)</p>

	<p><患者照会システム></p> <p>2.1:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰検査精度保証が構築された団体の数。 ・TBDCへ患者が照会された数 ・患者照会フォームの作成 <p>2.2:NTPコーディネーターとTBDCが実施したミーティング回数</p>	<p>2.1:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGO：2件 ヘルスセンター：11件 ・TBDCに照会される患者数が前年度に比べて10%増える ・患者照会フォームが完成する <p>2.2：定期的にミーティングを実施し、患者発見のための情報共有ができる。</p>	<p>2.1:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGO：2件 ヘルスセンター：11件 <p>2007年度以前にTBDCに照会された患者が記録されておらず患者の増減状況が測定できなかった。2008年度については以下の通り。</p> <p>[トンド] 保健所：135名 NGO：114名 計：249名</p> <p>[パヤタス] 保健所：46名 NGO：68名 計：114名</p> <p>その為、患者照会フォームを作成し、照会された患者数を把握すると共に、患者情報を確実にTBDCへ伝えられるようにすることにした。フォームは完成。 <u>(フォーム：添付資料①)</u></p> <p>2.2：TBDCメンバーが多忙のため、定期的な公式ミーティングが開催されなかった。しかし、その時々で集まれるTBDCメンバーとNTPコーディネーターでミーティングを月に2回開催し、計24回のミーティングを行った。</p>
--	--	--	--

	<p><モニタリング></p> <p>3.1: モニタリングの実施回数</p> <p>3.2: 半期・年次に実施されるプログラム評価の状況</p> <p>3.3: 患者家庭訪問の回数</p>	<p>3.1: 四半期毎に管轄区のNTPコーディネーターも参加して各地区のDOTS機関（クリニック/検査室）のモニタリングを実施した回数</p> <p>3.2: 半期・年次にプログラム評価が実施され、有効的な事業が実施される</p> <p>3.3: 必要に応じて</p>	<p>3.1: 2008年9月・10月・11月・12月、2009年1月・4月の計6回実施。 実施したモニタリングで問題が発覚した場合、翌月も訪問しフォローアップしたため、訪問回数が増えた。また、今まで定期的にモニタリングを実施していなかったヘルスセンターの職員が定期的にモニタリングに参加するようになった</p> <p>3.2: 事業評価が実施されることで、参加者（結核対策従事者）から、現在の事業状況や現時点で生じている問題を明らかにした。 <u>（事業評価：添付資料②）</u></p> <p>3.3: 外部者であるRJPIスタッフが家庭訪問を実施せず、DOTSパートナーであるCHV'sが訪問するようCHV'sに服薬中止防止のための患者観察方法をトレーニングで実施した。</p>
--	---	---	--

**活動2：確実なDOTSが
実施されるためのネット
ワーキング構築**

2.1：
・DOTS機関一覧表と地図の作成状況。それによる結核患者の治療状況・実施団体の連携の変容

2.2：
・NTPコーディネーター同士のミーティング開催数。
・ミーティングにより事業地における結核事業についての情報共有の状況

2.3：結核対策従事者間の協議ワークショップの開催状況

2.4：検査室が整備された件数とその変容

2.1：
・DOTS機関一覧表ができる

・団体間のネットワーキングが構築され、事業地において以下の数値が達成される
a. 新塗沫陽性肺結核患者の治療率85%以上
b. 新塗沫陽性結核患者と届出率が人口10万対100以上

2.2：
・ミーティングが四半期ごとに定期的で開催される（4回/年）
・ミーティングによって結核事業における現在の問題点が明らかになる

2.3：ワークショップにおいて、それぞれの団体の結核対策における今後の課題とプロジェクトの進行方法が明らかになる

2.4：
新規検査室を1件整備する機能していない3件の検査室を整備する

2.1：
・DOTS機関一覧表完成。患者がどこでどのような治療や検査が受けられるか一目で分かるようになり、DOTS機関同士の連携も図れるようになった。
（一覧表：別添資料②）
a. 新塗沫陽性結核患者治療率：
トンド
・ヘルスセンター：73.8%
・NGO：97.45%
パヤタス
・ヘルスセンター：81.1%
・NGO：41.4%
（参考資料①～④）
Accomplishment Report COHORT
b. 結核患者届出率
・トンド：128（人口10万対）
・パヤタス：145（人口10万対）
（参考資料⑤・⑥）

2.2：NTPコーディネーターが多忙のため、定期的には開催できず。その代わりに、RJPI開催のワークショップに全員参加し、問題共有や発見した事項について話し合った。

2.3：ワークショップを実施により、参加者が主体となって次年度の結核対策事業計画を立案し、今後、RJPIに期待することについても話し合われた。
（WS資料：添付資料②）

2.4：機材供与により新しく1件の検査室を設立。元々設備はあったが、備品が不足しているなどの理由により機能していなかった検査室をNGO3件、保健所3件の計6件を整備し、喀痰検査が可能な検査室として機能させた

	<p>活動3：活動3：対象地域におけるエンパワメント</p> <p>3.1：CHV'sのDOTSパートナーとしての変容。</p> <p>3.2：CHV'sタスクフォース設立によるCHV'sの行動変容</p> <p>3.4：結核患者によるサポートグループの設立 (注：CHV'sとは異なるグループ)</p>	<p>3.1：CHV'sがDOTSパートナーとして正しい知識を身につけられる</p> <p>3.2：CHV'sによるタスクフォースを設立し、CHV's自らが患者へ住民への結核の正しい知識を普及できる</p> <p>3.4：元結核患者自らが、結核患者を発見し、住民への正しい結核教育ができるようになる</p>	<p>3.1：オリエンテーションを受けた100人のCHV'sのうち、現在も90名のCHV'sが活躍している。新塗抹陽性患者の発見率が上昇しており、これは患者の身近にいるCHV'sが患者発見に努めたものと考えられる。</p> <p>3.2：トンド・パヤタスのそれぞれにおいてCHV'sの組織組合を設立完了。CHV's自らが地域内における住民への結核教育を実施。更にもその中の代表が定期的なミーティングを実施し、トンド・パヤタス間の異なる地域における結核の情報共有も行った。 (タスクフォース設立：資料③)</p> <p>3.4：元結核患者が中心となってグループを設立完了。彼らがコミュニティ内における結核患者発見を行ない、患者発見率上昇に貢献。</p>
	<p>活動4：事前評価・調査</p> <p>4.1：胸部レントゲン画像診断研修教材を作成のための現状調査の実施状況</p> <p>4.2：結核症例委員会用の患者診断アセスメントツールを作成状況</p>	<p>4.1：フィリピンの実情に則した胸部レントゲン画像診断研修教材が完成する</p> <p>4.2：TBDCが患者を診断するために必要なツールを作成できる</p>	<p>4.1：今年度はレントゲンの撮影状況（誰がどこでどのように撮影しているか、画像の質とその料金等）について調査を実施。それに伴って次年度は、日本から専門家を招聘してレントゲン研修教材を作成予定。</p> <p>4.2：今年度はTBDCがどのように実施されているのか実態調査のための、フォームを作成し、2009年度中に調査開始を予定している。</p>

	<p>活動5：アドボカシー</p> <p>5.1：キャンペーンに参加した協働団体と地元住民の数。</p> <p>5.2：キャンペーングッズを配布したことによる啓蒙活動への変容</p>	<p>5.1：全協働団体が参加 ①肺月間イベント NGO：7件、ヘルスセンター11件、地域住民と合わせて総参加者数350名目標</p> <p>②世界結核デー NGO：7件、ヘルスセンター：11件、地域住民と合わせて総参加者数350名目標</p> <p>5.2： ・配布するキャンペーングッズ数：300枚 ・参加者の結核への正しい知識が向上する</p>	<p>5.1： ①NGO：8件、ヘルスセンター：11件より、202名参加。地域住民（元結核患者とその家族）が298名参加。また、イベントにはマニラ市長が参加し、参加者の前で結核について演説。結核対策事業団体が一同に会する初のイベントとなった。</p> <p>②NGO：8件、ヘルスセンター11件より、362名参加。地域住民（元結核患者とその家族）298名が参加。</p> <p>5.2： ①肺月間イベントにおいては、計276枚のTシャツを配布、②世界結核デーでは246枚配布した。これによりRJPIの活動を周知してもらうと共に、結核撲滅の啓蒙活動を実施した。</p>
前提条件	<p>事業実施に影響を与えうる前提条件</p> <p>① HIV/AIDSが急速に蔓延しない ② 国民の生活水準が急激に悪化しない ③ MDR-TB（多剤耐性結核）が増加しない ④ 各レベルの保健行政が支援を継続する ⑤ 国レベルで結核薬が不足しない（結核薬の供給が安定する）</p>		
他のアクターとの役割分担の状況・複数年プログラムの中での位置づけ	<p>事業がより大きな計画、上位目的の一部である場合に記載</p> <p>フィリピン保健省は1996年から国家結核対策事業にDOTSを導入し、PPMD(官民混成DOTS)を実施しているが、フィリピンは地方分権が進んでいる為、RJPI事業地においては保健所職員の結核対策事業の財政や人材とその実施能力が不足している状況にある。</p> <p>RJPIは国家結核対策事業に則ったプログラムを実施しつつ、行政が結核対策事業を実施できていない地区を対象にプログラムを実施している</p>		

◎効果検証◎

検証概要

記入日（効果測定日）	2009年7月30日
実施者名	大角晃弘 竹中伸一 紺麻美 鈴木真帆 Aurora Querrí
検証期間	2009年5月10日～2009年7月30日
事業の総費用の変更	事業費の超過がある場合には、金額と費目、理由を記載。

	予算額:US\$171,060.00 事業費:US\$144,614.96 差 額:US\$26,445.04(*事業費の超過なし)
指標からみた達成状況	(1) 質の良いDOTSの構築
(事業の成果)	1. <u>人材育成</u> :研修は期待していた成果が得られフィリピンの実情に沿った教材の改訂も行なわれた。 2. <u>患者照会システム</u> :患者をTBDCへ確実に照会する為のシステムが構築された。 3. <u>モニタリング</u> :定期的に確実なモニタリングを実施。また、半期・年次ごとにプログラム評価を実施した。
	(2) ネットワーキング構築:DOTS実施機関一覧表完成。定期的な会合の実施により、事業地の結核対策従事者との密な連携が取れるようになった。
	(3) エンパワーメント:ヘルスポランティアや元結核患者との定期的な会合や、オリエンテーションにより、結核に対する正しい知識を身につけることができた。また患者がヘルスポランティアとなり、患者発見率上昇に貢献した。
	(4) 事前評価・調査:フィリピンの実情に則した研修をするための教材作成、また確実なレントゲン診断をするためのツールの作成に向けた事前調査を実施し、次年度から研修や教材作成を実施するための準備が整った。
	(5) アドボカシー:多くの住民や患者、協働団体が参加したアドボカシー活動が実施できた。
備考	下記、項目別効果検証欄参照

項目別効果検証

項目	結果	備考
有効性 (事業目的の達成状況) (「指標からみた達成状況」を基に判断)	B	<p>上記事業の成果から事業目的の達成に貢献したかを検証。 A:事業目的は達成された、B:事業目的は一部達成された、達成されたが問題があるC:事業目的はほとんど達成されていない(理由を付す)</p> <p>今年度は不測の事態として、世界抗結核薬基金の資金決済問題などで、国家レベルで抗結核薬及び検査機材などの不足が生じた(抗結核薬が不足した詳細については添付資料④参照)。その為、RJPI事業地においても、治療や検査を受けられない患者が出た為、結核の治療率は目標としていた数値を下回った。しかし、RJPIの活動は予定通りに実施され、これらの活動によって以下のような効果がみられたと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで、事業地において同じように結核対策事業を実施しながらも、個々に活動していた公的機関や、NGOなどの私的機関が、結核患者の効率的かつ効果的なDOTS実施を目的として、両地区におけるネットワークの構築を行なった。その手始めが、それらの団体で働く結核対策従事者を対象としたワークショップの開催とDOTS機関一覧表の作成であった。この一覧表を元に、結核患者がどこで検査を受け、どこでこの機関で治療を受けられるのか明確となり、適切な治療を受けられずにいた結核患者が、確実に治療を受けられるネットワーク体制を確立した。 結核患者の治療率上昇を目指し、結核治療を行なう医師・

		<p>看護師を始めとして、患者の治療パートナーであるCHV'sから、確実な診断を下すのに欠かせない検査を行なう検査技師まで、結核治療に必要な要員を対象として、包括的に研修を実施していった。これは患者発見率を上昇させ、しいては結核患者治癒率を上昇させるのに有効的であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 塗抹陽性で胸部レントゲンに所見を認める患者は、TBDCによる診断が必要であるが、ネットワーキングが構築される以前は、塗抹陰性患者はどこで診断や治療を受ければ良いのか情報がなく、またTBDCへ患者を照会する際のフォーマットがなかった為、照会先の機関でも患者の正確な情報を得ることが出来なかった。TBDCも含めたネットワーキングを構築したことで、TBDCに照会される患者数が上昇した。今後はフォーマットを作成することで、患者が適切な診断と治療を受けられるようになると言える。 当初、定期的にNTPコーディネーター間のミーティングを実施し、結核事業の問題点などを共有する予定であったが、それぞれのコーディネーターが多忙のため、定期的に開催することは難しかったが、年に2回開催されるワークショップには全員が参加し、そこで情報共有し問題点を明らかにすることができた。更に、既に構築されたネットワーキングにより、NTPコーディネーター同士やRJPIスタッフが密に連絡を取れており、NTPコーディネーターのみのミーティングを開催しなくても、情報共有が可能となる体制が出来上がった。 検査室として機能していなかった検査室に機材供与を行なったり、新しい検査室を立ち上げて、近隣に検査設備がなく、遠方の検査室まで運んでいた喀痰を運搬する必要がなくなった為、迅速で確実な喀痰の適切な診断ができるようになったことで、新塗抹陽性結核患者発見率が上昇した。 CHV'sタスクフォース設立し、メンバーがコミュニティの中心となり、結核対策を実施していくためのモチベーションが向上したと考える。人員の入れ替わりが頻繁な都市貧困地区において、現在も9割のCHV'sが活動を続けていることから、コミットメントを持って活動していることが分かる。そして、これが患者発見率向上に寄与したものと考ええる。更にトンド・パヤタスという2つの異なる地区において、似たような環境下で活動しているCHV'sの存在がいることは、彼らにとって良い意味での競争心をもって活動に参加する動機づけとなった。 元結核患者による組合を立ち上げた。一般的に元患者は結核に関するコミットメントが強いとされる為、継続的に結核対策に従事してくれる可能性が高い。CHV'sと同様、地域内で患者さんを見つけやすい立場であり、更に患者さんへの偏見もないことから、こうした元患者の組合の活動が患者発見率向上に寄与したといえる。 <p>以上の理由により、今年度の活動を通して有効的に事業目的を達成したものと考ええる。</p>
効率性	A	<p>(効率性) 事業へのインプットが想定されていた効果を生んでいるか。 A: 事業は効率よく行われた、B: 効率性はやや落ちる、C: 効率が悪かった (理由を付す)</p>

		<p>フィリピン保健省は、2003年よりPPMDを結核対策の戦略に取り入れ、保健所などの公的セクターと、NGOや私立病院などの民間セクターが協働で結核対策を実施することを提唱している。フィリピンは地方分権化が進み、政策実施の権限を地方に委譲されている。しかし、実情は財政や人材が不足している地域の保健所が、その地域に不足している人材や設備を持つNGOとが協働で結核対策を実施することが有効であると考えられる。</p> <p>従って、このプロジェクトは保健省が提唱する結核対策の戦略である官民一体となった結核対策の実施を後押しするものである。事業や人材を新規開拓するのではなく、現存のリソースを活かし、公的機関と私的機関のそれぞれの利点を活かして事業を実施したことにより、より効率性を図れた事業展開ができたと考える。</p> <p>今年度は放射線技師トレーニングの実施は見送ったものの、フィリピンの実情に適した教材開発に向けて、平成21年度には教材開発のためのさらなる現状調査と教材の開発、平成22年度にその教材を使用したトレーニングを実施する予定である。</p>
インパクト	A	<p>事業目的が達成されたことにより上位目的が達成されたか。想定以上の波及効果があったか。</p> <p>A:住民の意識改革等高いインパクトが見られた、B:事業目標自体は達成されたが、上位目的への影響はない、C:負の影響が見られた（理由を付す）</p> <p>（上位目標の設定が2015年であるため、現時点での波及効果について記載）</p> <p>フィリピンの地方行政の特徴として、事業担当者の頻繁な入れ替わりがある。その為、RJPIで結核研修を受けた保健所の結核対策従事者が、次年度には結核事業を離れている場合も多い。事業地であるトンド地区・パヤタス地区は、行政の保健サービスが住民に届きにくく、患者が治療を受ける環境が整っていない。それに加え、住民の定着率が低く、治療中断者が多いため、他地域に比べて結核の高罹患率地域である。</p> <p>しかし、このような地域特性があるにも関わらず、昨年RJPIの研修を受けた100名のCHV'sのうち、90名が現在も活動しており、新塗抹喀痰陽性患者の届出率が高い。なぜ、このような良い治療成績を残せたかといえ、1. 地域の住民でもあるCHV'sの育成と活動継続へのサポート、2. 元患者である地域住民の育成、3. 定着率が高いNGOスタッフの育成、以上3点が実施できた為と考える。</p> <p>今年度の事業において、RJPIはNGOと公的機関、そしてDOTSパートナーであるCHV'sに加えて、元結核患者の会を設立し、多方面から結核患者をサポートするシステムを構築できた。これは地域住民への大きな波及効果であったと考える。</p> <p>また、結核のアドボカシー活動を通して、新設したばかりの団体であるRJPIの活動PRや、キャンペーングッズを作成することで、団体間の結核対策に対する士気を高めることもできた。</p>

<p>自立発展性</p>	<p>A</p>	<p>実施団体が撤退した後も現地住民等の主体的な協力により事業の効果が発現されているか。 A:維持管理体制・活動の持続的運営体制が整っており、自立発展性が期待できる、B:体制の確立、資金の目処等が十分ではないが、当面は継続可能、C:問題が多く、持続性・自立発展性は低い（理由を付す）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ RJPIではコミュニティ主体で結核対策を実施していくことが大前提とした事業を実施しており、上記（インパクトの項目）で述べたように、地域に定着する人材育成に力を注いでいる。また、研修用教材もフィリピンの実情に沿った内容に改訂したものや、これから改訂するものもあり、RJPIによって研修を受けた結核対策従事者が将来的には、RJPIが開発した研修教材を使用して、研修する側の人材に育成することを目標としている。 ・ RJPI自身のスタッフ育成も実施しており、RJPIスタッフ自らが中心となって事業を運営していくことが可能な状況である。 ・ 資金については当事業と平行して世界基金獲得に向けての準備を行なっている。成果としては世界基金CCMメンバーにオブザーバーとして参加予定。TWGのメンバーとなることがほぼ決定している
--------------	----------	--

事業の妥当性	A	<p>事業目的が上位目的の達成に有効であったか。受入国の政策に影響を及ぼしたか。</p> <p>A:事業の妥当性は高い、B:事業の妥当性は高くないが認められる、C:事業は妥当性を欠いていた（理由を付す）</p> <ul style="list-style-type: none">・RJPIの理事にはフィリピン保健省の感染症課職員がおり、彼らのアドバイスを受けながら事業を進めている。これはフィリピン保健省が打ち出す結核対策の方針に沿った事業展開を実施していることを意味する。しかし、RJPI事業地であるトンド地区・パヤタス地区という都市貧困層と呼ばれる地域においては、財政不足・人材不足などの問題や、治安上の問題から行政の保健サービスが行き届かない地域であるため、こういった地域でRJPIが活動することは、NGOの機動性を活かした有効的な活動であったと考える。
--------	---	---

その他	社会的影響 (女性、環境)、 住民参加等	A	<p>【女性】 A: 女性や社会的弱者が主体的に参加/主要な受益者であった。十分な配慮が見られた、B: 女性や社会的弱者への配慮は特にないが、問題はない、C: 女性や社会的弱者への配慮はなく、負の影響があった</p> <p>当事業において、トレーニングを始め、各プログラムは男女差なく参加可能である。しかし、実際には女性が研修や事業地での結核対策事業を主体的に実施する傾向があり、今年度もCHV's トレーニングを含めて、女性の参加が多くみられており、女性が主体となってプログラムを進めている傾向がみられた。</p>
		B	<p>【環境】 A: 環境への配慮が見られ、十分な対策が採られている、B: 環境への配慮は特にないが、問題もない、C: 環境への配慮はなく、負の影響があった。対策も採られていない</p> <p>この事業による環境面への影響は特に問題はないと考えられ、環境への配慮は特段行っていないか、それによる影響もないものとする。</p>

【資料内で使用されている略語表】

略語	正式名称	日本語訳
BCG	Bacille de Calmette et Guerin	結核のBCGワクチン
CHV's	Community Health Volunteers	行政に属さず、主に住民が中心のヘルスボランティア
DOH	Department of Health	フィリピン保健省
DOTS	Directly Observed Treatment Short Course	直接監視下短期化学療法
EQA	External Quality Assurance	外部精度評価
IEC	Information Education Communication	ここでは結核の健康意識を高めるための教材
MDR-TB	Multi Drug Resistant Tuberculosis	多剤耐性結核
NGO	Non Government Organizations	非政府組織
NTP	National Tuberculosis Control Program	国家結核対策事業
NTRL	National Tuberculosis Reference Laboratory	国立結核菌検査リファレンスセンター
PPMD	Public Private Mix DOTS	官民混成DOTS
RJPI	RIT/JATA Philippines, Inc.	結核予防会フィリピン事務所
TBDC	Tuberculosis Diagnostic Committee	結核症例(検討)委員会
WHO	World Health Organization	世界保健機構

今後の本部活動への示唆、新規案件に特にフィードバックできる事項

--

検証資料

調査方法	事業終了前の4月28日に、NTPコーディネーターとパートナー団体が会して、事業終了時ワークショップを開催 また、資料としては、RJPIスタッフがモニタリングで収集したデータを採用。		
面会者リスト	名前	肩書き	所属

本部記入

今後の方向性・課題と改善策	<p>本効果検証を踏まえ、今後の方向性、課題への対処方法、フィードバック情報等を記載する。</p> <p>今後は、2008年度構築した結核対策実施団体のネットワークを活かし、質の高い直接監視下服薬短期コース（DOTS）のアクセス向上を目的とした事業を実施する。今年度実施に至らなかったX線撮影研修については、まずフィリピン版研修教材を完成させ、研修を実施する予定である。</p>
---------------	---